

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【公開番号】特開2018-27138(P2018-27138A)

【公開日】平成30年2月22日(2018.2.22)

【年通号数】公開・登録公報2018-007

【出願番号】特願2016-159189(P2016-159189)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/42 (2006.01)

A 6 1 F 13/514 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 13/42 B

A 6 1 F 13/514 4 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月13日(2018.12.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記第 1 方向において間隔を空けて配置された複数列をさらに有し、  
各列において、前記装飾部が前記第 2 方向に複数並んで配置されており、  
前記第 1 方向において隣接する前記列どうしにおいて、前記複数の装飾部の個数が互いに異なる請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の着用物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

図 6 ( b ) は、表 1 の  $L_{01}$  を横軸、 $E_{01}$  を縦軸としたグラフである。図 6 ( b ) を参照すると、基準となるインジケータ 4 1 の色が定まっていない場合には、図 6 ( a ) の横軸を明度  $L_1$  から明度差  $L_{01}$  に置き換えることで、マスキングとして機能する離間する部位 6 5 の色を表すことができる。明度差  $L_{01}$  が小さい場合には、色差  $E_{01}$  が大きくてもマスキングが可能であり、また、明度差  $L_{01}$  が大きい場合には、色差  $E_{01}$  が小さければマスキングとしての役割を果たすことができる。したがって、マスキングとして機能する離間する部位 6 5 の色の領域は、境界ライン K 2 を用いて、以下のように表すことができる。

$$E_{01} = 0.0393 L_{01}^2 - 1.0013 L_{01} + 23.284 (= K 2)$$